

バブル崩壊後の20年間は日本経済は低迷状態が続き、失われた20年と呼ばれる。その間に公的債務は膨れ上がってしまった。将来世代に大きな負担を残しているとともに、財政制約も非常に厳しくなっている。

しかし、悪いことばかりではない。この間に企業も家計も過剰債務の状況を脱して、多すぎると思われるような貯蓄を積み上げている。この民間の貯蓄資金をどう活用していくのか、ということが日本経済再生のカギとなる。

だからこそ、PFI(民間資金を活用した社会資本整備)や、PPP(官民パートナーシップ)の重要性

伊藤元重の

ニュースな見方



が増している。民間の資金が利用して、公的な活動の質と量を高めるの。そして官民連携でより高い価値をいかに生み出していくのか、ということが問われる。公的セクターには素晴らしい資産が多くある。不動産のような物的なものだけでなく、教育や公共サービスなどのサービスでも、民間の資金や知恵が関わることで、より高い価値を生み出すことができる。こうした点で、レンタル

書店「TSUTAYA」を展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)の「代官山 蔦屋書店」(東京・渋谷)の店舗が連想される。書籍を並べた空間が、武雄市の事例では官民連携という点が重要だ。地方では、スターバックのようなカフェなどが入っている。そこで雑誌を読める。そこで雑誌を読める。その町の一等地にある。書籍を購入し、費用の節約にとどまらず、より高い価値を提供するために、物件

私はまだその図書館を実際に見ていないが、CCCの「代官山 蔦屋書店」(東京・渋谷)の店舗が連想される。書籍を並べた空間が、武雄市の事例では官民連携という点が重要だ。地方では、スターバックのようなカフェなどが入っている。そこで雑誌を読める。その町の一等地にある。書籍を購入し、費用の節約にとどまらず、より高い価値を提供するために、物件

節約超え高付加価値を

共サービスなどのサービスで前年度の入館者数を超えても、民間の資金や知恵が関わることで、より高い価値を生み出すことができる。こうした点で、レンタル

共サービスなどのサービスで前年度の入館者数を超えても、民間の資金や知恵が関わることで、より高い価値を生み出すことができる。こうした点で、レンタル

公的サービスに民間力

自分も本好きであるという人も多し。もちろん、購入できる。自分が本好きであるという人も多し。もちろん、購入できる。自分が本好きであるという人も多し。もちろん、購入できる。

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。